

ブラジリアンワックスで、勃起した方が施術しやすいんで勃起させてくださいとお願いされちんぽを摩られ手を握られておっぱいに当てられた話

夏が近づいたある年に、ブラジリアンワックスの予約をした。

当日、指定された時間に店に着く。清潔感のある白い内装で、受付の女性が優しく笑顔で迎えてくれた。「初めてですね。緊張されますか？」と聞かれ、僕は少し照れくさく頷いた。案内された個室は明るすぎず、落ち着いた雰

困気。ベッドに横になるよう促され、タオルで下半身を覆う。

施術を担当してくれるのは、20代後半くらいの女性だった。黒髪を後ろでまとめ、白いユニフォームがよく似合っている。名前は美咲さんと名乗った。声は柔らかく、手つきも丁寧で、最初は安心した。

「では始めますね。まずは陰毛を確認します」

タオルを丁寧にめくられ、僕の股間が露わになる。冷たい空気が肌に触れて、思わず体が強張る。美咲さんは淡々と様子を見ていた。

「竿の周りの毛をきれいに取るには、皮膚が張っている方がやりやすいんです。萎んでいると、皮膚がブヨブヨしていてワックスがうまくつかないんですよ」

そう説明され、僕は分かったような、分からないような顔をした。でも実際、緊張で完全に萎んだ状態だった。女性の前でこんな姿を晒しているのに、興奮するどころか、恥ずかしさで縮こまっている。

美咲さんは困ったように少し眉を寄せた。

「どうしたら勃起しますかね……。勃起された方が楽になるんですけど」

僕は顔を真っ赤にした。いきなり勃起してくれって言われたので当然だ。

「ちょっと、擦ってみましょうか」